

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	鳥取県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	鳥取県文化遺産活用地域活性化事業計画		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>鳥取県教育振興基本計画（平成21年第一期計画、平成26年第二期計画策定）及びようこそようこそ鳥取県運動取組方針（平成22年策定、平成27年改訂）を踏まえ、地域の文化遺産の次世代の継承・発展や、文化遺産を活用した地域活性化を推進する取組を実施する。また、計画期間中は取組を通じて、行政と民間団体、文化財保護団体による連携・協力体制の確立を目指す。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、鳥取県が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。</p> <p style="text-align: center;">主な担当課、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会事務局文化財課：文化財の取扱等に関する指導等</li> <li>・各総合事務所地域振興局：地域振興業務に関する連携、調整等</li> <li>・地域振興部文化政策課：文化振興業務に関する連携、調整等</li> </ul> <p style="text-align: center;">また、事業は、次の団体が実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県文化財保存協会（会長：永松 大）</li> </ul> <p style="text-align: right;">関連団体（とっりの文化遺産魅力発掘プロジェクト実行委員会、伯耆国たたら顕彰会、NPO法人プロデュース・ハレ）</p> <p>（※構成団体の八頭若桜谷文化遺産魅力発信事業委員会の事業実施は無し）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 63,995 千円	平成29年度申請額： 12,606 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>本計画に基づく事業の実施により、県民の身近にある多様で豊かな文化遺産に対し、県民の関心や意識の向上が期待でき、地域の文化遺産の保存と次世代への確実な継承の効果をもたらす。また、地方公共団体と地域の文化遺産に関わる民間団体が協働して事業に取り組むことにより、県民目線による地域の文化遺産の魅力を再発見、地域が主体となったまちづくりやエリアブランド化、観光客の誘客など地域の活性化が期待できる。</p> <p>また、情報発信や普及啓発事業などの事業実施により、県観光入込客数目標毎年1100万人（ようこそようこそ鳥取県運動取組方針平成27年改訂目標）に寄与するものとする。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	「ふるさとを元気に」とっりの文化遺産活用推進事業（県財源事業） ○文化遺産を活かした地域振興活動への支援		
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>地域が主体となり文化遺産の次世代の継承・発展や、活用する取組のため、平成23年度から文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業を実施しているが、歴史歴史文化基本構想は、地域の多様な文化財を把握し、文化財の周辺環境まで含めて保存、活用する構想であること。そしてこの構想はまちづくり、文化振興、教育振興計画と整合をもたせ作り上げるものであることから、基礎自治体である市町村が策定に向う地域の機運醸成を図りたいと考えている。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	鳥取県教育委員会事務局文化財課（歴史遺産室）		

## 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	本事業で活用する文化財「国史跡妻木晩田遺跡」の来場者数			関連事業 :	①、②	
目標値 1 :	平成 27 年度		36,366 人	⇒	平成 33 年度 38,603 人	
設定根拠 1 :	妻木晩田遺跡が所在する大山地域の平成23年度→27年度観光入込客数の伸び率を参考に1.01倍を年間伸び率とした。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	本事業実施エリア (鳥取県西部) の観光入込客数			関連事業 :	③、④	
目標値 2 :	平成 26 年度		1,545,000 人	⇒	平成 33 年度 1,700,000 人	
設定根拠 2 :	県目標とする観光入込客数 (平成26年度10,048千人→11,000千人) を参考に、県西部エリアの観光入込客数を 1 割程度の増加目標に設定。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	県内伝統芸能保存会数の維持			関連事業 :	⑥	
目標値 3 :	平成 27 年度		187 団体	⇒	平成 33 年度 187 団体	
設定根拠 3 :	平成 27 年度の調査研究で確認された県内伝統芸能保存会数により設定					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
団体	団体	団体	団体	団体	団体	



事業④：	たたら製鉄遺跡調査研究事業	実施団体：	伯耆国たたら顕彰会
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
事業概要：	「鳥取県生産遺跡分布調査報告書」に掲載のたたら製鉄遺跡の調査は終了したが、更に「伯耆志」、「日野郡史」、「近藤家文書による鉄山」等を史料を手掛かりとしながら、未発見の「たたら製鉄遺跡」を地域住民との対話を基にした情報収集を続けて新規発見につなげる一方、残っている未調査地域の調査を進める。		
評価指標区分：	(リストから選択してください。)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	(具体的な指標を記載してください。)		
目標値：	平成 年度	(単位)	⇒ 平成 33 年度 (単位)
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)
事業⑤：	普及啓発用の映像撮影、収集と未調査団体(保存会)の調査	実施団体：	NPO法人プロデュース・ハレ
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
事業概要：	新たに存在が判明した民俗芸能と、既調査分の不足情報を、各民俗芸能団体・自治体などより調査・取材して入手及び独自に取材・撮影などをして、データ化し、鳥取県内の民俗芸能の基礎情報をより完成形に近づける。またデータをHPや動画共有サイトへ掲載して情報発信を行う。		
評価指標区分：	(リストから選択してください。)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	(具体的な指標を記載してください。)		
目標値：	平成 年度	(単位)	⇒ 平成 33 年度 (単位)
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)
事業⑥：	後世に残すべき詳細な映像記録作成／伝承が進んでいない民俗芸能の記録作成	実施団体：	NPO法人プロデュース・ハレ
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	存続が出来なくなっても記録として後世に残す為、民俗芸能の最も重要な本番と芸能の内容(所作なども含めて詳細な手引き(ハウツー的なところ)を重点に入れ込む)を鮮明な映像と資料で記録しデータ化・DVD化する。また、後継者への指導ツールにも使用する。(映像(手引き・本番・他)としてDVD作成、楽曲収録としてCD作成、web等に掲載して発信)		
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し(又は利用)回数等	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	記録映像の頒布先より利用回数		
目標値：	平成 28 年度	300 回	⇒ 平成 33 年度 2,000 回
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
回	回	回	回